

「待ってまわす」

野田 信子（愛知県春日井市 79歳／女性）

きみ、いまどこにいるの？ えっ、えっ。
左の耳、めっきり聞きづらくなりました。
わたし、もうすべ八十になるおばあさん。
高校生のきみが、突然にいなくなっ……。
あれから何年になるのしょうっ？

交差点の信号が赤になって、立ち止まったちようびの時、
銀色のバイクが目の前を駆け抜けて行きました。

白いジャンパーを風になびかせて、風船のようにふくらませて……。

アッ。その横顔は、たしかにきみでした。
それっきり、ほんとうに、それっきり。
あれから何年になるのしょう。

よく聞こえないわ、えっ、えっ。
ただいま、風の国でお年寄りをバイクで送り迎えしてるって、それが仕事だって。
まあ！ 風の国にもお年寄りがいらっしやめ。
送迎バイクとはすてきねえ。

そっだ、わたしお願いがあります。
ひとつだけ。それはね、
その時が来たら、その時が来たら、
迎えに来てほしい、きみのバイクで。

そんなのお安いご用だよ、花のバイクで行くわって。
どんな花がいいかって？
スズラン、七色のスズランはどうかって？

花のバイクにまたがって、虹の橋行くおばあさん。
運転手はきみだ、車掌はわたし。
リンリン、リンリン、リンリンリン、
スズランの音が風の国をゆらします。

えっ、えっ。何年あとになるかって？
それは、それは……お陰で何だか元気が出てきてしまっ……。
ありがとう。

でも、待っています。それまで仕事しっかのね。